

守り、創り、育てよう  
ふるさと島根の景観

# 第13回 しまね景観賞



島 根 県

## ■表紙のご紹介

### 「出雲の里」 平成10(1998)年 紙本着色 (島根県立美術館所蔵)

再興第83回院展出品作。前田直衛は、出雲平野独特の景観である築地松(黒松の防風林)に囲まれた民家の風景を好み、再三現地にて取材している。この作品では、田植え前の水田に築地松が映り込む夕暮れ時の農村風景をイメージし、ひっそりと静まりかえった景色の中で、茅・瓦併用屋根の家屋には灯りがともる。母親が夕食を準備する傍らで、遊びに興じる子供達の歓声が聞こえてくるようだ。害虫による松枯れにより、この貴重な景観は近年急速に姿を消しつつある。出雲をこよなく愛する前田も、この現状に大いに心を痛めている一人だ。

### 前田 直衛(まえだ なおえ) 大正4(1915)年～

鳥取市(旧用瀬町)出身、京都市伏見区在住の日本画家。菅楯彦、橋本関雪、羽石光志に学ぶ。昭和35(1960)年より院展に入選を続け、院友を経て同61年(1986)日本美術院特待に推挙される。東京火燿会会員、京都日本画家協会会員。純日本的な風景を愛し、京の町屋を中心的なモチーフとしながらも、奈良、出雲などに取材。伝統的建造物を真正面から捉え、丁寧かつ写実的な描写により、日々の暮らしの中に息づく和の情緒を表現し続けている。

# はじめに

---



島根県知事 **澄田信義**

私たちのふるさと島根では、美しい自然の景観、人々の営みから創り出された農山漁村の景観、先人の知恵が活かされた歴史的な景観など、それぞれの地域で特色ある景観が生まれ、形造られています。こうした、優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り、育てることを目的として、平成3年に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定し、様々な取組みを行ってきました。

第13回を迎える「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献している建造物等を表彰し、快適で文化の薫り高いふるさと島根の景観を形成していくことを目的として実施してきました。それぞれの地域において、ゆとりや豊かさを実感できる魅力ある景観が数多く形成される中で、今回を含め、これまでに140件が受賞され、多くの県民の皆様の高い関心を寄せていただいております。

今回は、大賞の「田和山遺跡と共存する松江市保健医療福祉ゾーン（松江市立病院・松江市保健福祉総合センター）」をはじめとして、12件の建物や活動などを表彰いたしました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、ご尽力いただきました審査委員の皆様や、応募をいただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

今後とも、本県の魅力ある景観の保全・創造への一助となる取組みを進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成18年2月

# 選考総評

---



しまね景観賞審査委員会  
委員長 **藤岡大拙**

第13回目を迎えた「しまね景観賞」を募集するにあたり、部門のうち、「工作物・その他部門」の名称を「工作物その他・活動部門」に改め、景観づくりのための行為、活動が含まれていることを分かりやすくした。

こうして行った今回の応募総数は、101件であった。4年連続で100件を超えており、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、書類審査による第1次審査において、まず35物件を選定し、第2次審査では、現地審査と最終審査会とを行い、次の12件の建築物や活動等を選定した。

大賞は『田和山遺跡と共存する松江市保健医療福祉ゾーン（松江市立病院・松江市保健福祉総合センター）』である。国指定史跡田和山遺跡の保存に配慮し、これと共存するとともに、建物そのものから周囲の緑化、ストリートファニチャー等まで細やかに気配りを行ったデザインが高く評価された。

優秀賞は5件である。「まち・みどり部門」から選ばれた『木綿街道の町並み』は、特徴的な歴史的町並みを活かしたまちづくりが着実に行われている点が評価された。「土木施設部門」から選ばれた『志津見大橋』は、国内でも珍しい構造形態で軽快なデザインが評価された。「公共建築物部門」からは、控えめで愛らしいデザインで、成り立ちもユニークな『荒神谷博物館』と、旧家を修復することによって伝統的家屋の美しさを十分に伝えてくれる『旧割元庄屋 美濃地屋敷』が選ばれた。「民間建築物部門」からは、建築にあたって可能な限り自然を残して四季を感じさせるよう配慮した点が評価された『旅館ぬしや』が選ばれた。

奨励賞は6件である。「まち・みどり部門」からは、大規模な棚田景観が保全されている『中垣内の棚田』が選ばれた。「土木施設部門」からは、シンプルで地域をつなぐかけがえのない橋である『西ノ島大橋』と、大仰にならず自然体で整備された『斐伊川 木次水辺の楽校』が選ばれた。「個人住宅部門」から選ばれた『高野の家』は、年数の経過によって家屋も庭木も周囲になじんでいる点が評価された。「工作物その他・活動部門」から選ばれた『宍道湖景観を守るための嫁が島管理活動』、『花とヨシに託す宍道湖岸の景観づくり』はともに活動であり、地域の景観づくりに対する行動力が評価された。

今後も、さらに多くの県民、事業者の皆さんが、よりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれることを期待してやまない。



# 大賞

## 田和山遺跡と共存する松江市保健医療福祉ゾーン (松江市立病院・松江市保健福祉総合センター)

所在地 松江市乃白町  
事業主体 松江市  
設計者 (株)石本建築事務所  
施工者 大林組・鴻池組・カナツ技建工業・まるなか建設・幸陽建設・林谷工業特別共同企業体  
松浦造園(株)、(株)田部

概要 松江市立病院：  
構造 免震RC造 地上8階・塔屋1階・地下1階  
建築面積 9,813.76㎡ 延床面積 35,973.21㎡  
病床数 470床  
松江市保健福祉総合センター：  
構造 RC造 地上3階  
建築面積 2,243.32㎡ 延床面積 5,126.21㎡  
完成 平成17年3月



田和山遺跡に隣接し、島根女子短大、松江商業高校、湖南中学など多くの学校に囲まれた文教地区にある松江市保健医療福祉ゾーン。

田和山遺跡の空間を活かしたやさしいフォルム、自然素材の質感を大切にした本館やストリートファニチュア等のデザイン、それぞれに細やかな気配りがなされている。周辺の植栽では、すでに市有地であった緑地帯を自然なかたちで残し、桜やハナミズキの並木道、落葉樹と常緑樹の配置バランスで季節が感じられるよう、文教地区という地域性を考慮した設計となっている。また、屋上緑化の将来にわたる維持などの課題が存在するものの、環境への配慮も十分感じられた。そして、田和山遺跡をはじめ松江市街地や宍道湖、遠くは大山まで一望できる立地を活かし、この施設を利用する人々が様々なロケーションを楽しめる工夫をいたるところに施してあるのは見事である。

夜になると、まるでホテルをイメージさせる光の演出は、昨今の社会情勢から賛否は分けられるところではあるが、街路を明るく照らすことで文教地区の安全性を保ち、山陰道を通る車に現在地松江を知らせるランドマークとなっている。

単に医療福祉施設の機能を追求するだけでなく、利用者、周辺地域の人々、そして、市街地や山陰道といった離れた位置にいる人々など、施設を見る（施設から見る）あらゆる目を意識し、出来る限りの配慮を行ったデザインは、まさに大賞にふさわしいといえよう。（浅田純作・平本映子）



# 優秀賞 木綿街道の町並み

所在地 出雲市平田町  
 事業主体 出雲市、高松奈津子、新町町内会、片原町町内会、宮之町町内会、木綿街道の会、木綿街道商業振興会  
 設計者 石川建築設計事務所  
 (有)江角建築事務所  
 施工者 (有)持田建築、昭和開発工業(株)

概要 出雲市木綿街道交流館：  
 本石橋邸 木造2階建て 切妻妻入塗壁造り  
 公開面積 244.07㎡  
 交流棟 木造2階建て 切妻妻入塗壁造り  
 延床面積 284.25㎡  
 高松邸<sup>つむぎ</sup>：木造2階建て 平成17年6月改修  
 江戸から明治にかけての建物が数多く残る町並み（約500m）で、町並み保存活動、まちづくりイベントの開催、プランターによる木綿栽培等が行われている。



木綿街道……何か心地よいぬくもりのある響きである。旧平田市の3つの町並みを『木綿街道』としている。川に沿った家並みと道をはさんで建つ家並みは、江戸、明治、大正、昭和期のものが混在している。そのことがユニークで面白い。

なかでも目立つのは、切妻妻入り塗壁造りのモダンなデザインの本石橋邸である。藩主が出雲大社参詣の際の御成屋敷として造られ、築250年からのもので、その間、増改築、保存がなされてきた。となりに、平田の商業、歴史、文化の情報発信の場として木綿街道交流館交流棟が建ち、手仕事を伝える研修室などの棟も並ぶ。ここは、元医家だった家を復元した建物で、やはり本石橋邸とつながって、この一郭は見るべきものがある。

平田は、江戸期から雲州木綿の市場町として栄えた。京・大阪への道は日本海へ通じる川が搬路であった。その川から店へ荷を通す小路が幾筋もあり、歩くと家々の間から川が見え、ホッとする風景となり、何軒かの家には白地に藍の字で『木綿街道』と染められたのれんがかけられ、いい風情だ。また、家々の前には、綿（わた）の木の鉢が置かれているのも面白い。明治、大正からの3軒の醤油屋、300年ののれんを守る生姜糖屋などを含めて、全体として他の歴史的建物・町並みとひと味違う町並みとなっている。

(山谷裕子)

# 優秀賞 志津見大橋

所在地 飯石郡飯南町志津見  
 事業主体 国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所  
 設計者 アジア航測(株)松江営業所  
 施工者 志津見ダム志津見大橋上部工事オリエンタル建設・富士ピー・エス特定建設工事共同企業体、(株)中筋組、(株)トガノ建設、今井産業(株)

概要 橋長 280m  
 全幅 10.75m  
 橋梁形式 5径間連続複合トラス橋  
 完成 平成17年6月



飯南町の山間にかかるこの橋は、志津見ダム建設による主要地方道付け替えにともなって出来た湖面橋である。この橋の特徴はなんといってもこの構造形態にあって、橋桁のウェブ部分が一般的にはコンクリートだがここでは鋼管トラスとし上下の床版がPCコンクリート版の、所謂「ハイブリッド構造」となっている事だ。この構造形態は国内でも前例が少ないらしい。

印象的なのは、ウェブ部分がトラス構造のため透けていると同時に、そのトラスの色も山々の緑に同化させたことによって、上下にあるコンクリート床版の水平ラインが際だってシャープに見えることだ。さらに鋼管トラスにしたことで重量が軽減されたため橋脚もスマートになり、全体のバランスも良く実に軽快な姿になっている。また、橋の下の地形の変化に併せて橋桁のせい（高さ）も変えていくなど、橋梁がもつ圧迫感を減らすための配慮が随所に感じられる。この橋の周囲にはコスモス畑やポピー畑などもあり、現在は公園整備も行われているとのこと、それが完成すれば志津見大橋一帯には調和のとれた見応えのある新たな景観が出現しそうだ。  
 (小草伸春)



# 優秀賞 荒神谷博物館

所在地 簸川郡斐川町大字神庭  
事業主体 斐川町  
設計者 (株)トータルメディア開発研究所  
施工者 (株)フクダ

概要 構造 RC造・一部木造2階建て  
建築面積 1,382.26㎡  
延床面積 1,316.40㎡  
完成 平成17年3月



小高いアプローチから俯瞰すると、なんともつつましく、愛らしく見える。エントランスも、荒神谷の自然に開かれていて、控えめに脇に佇む感じがいい。緩やかにカーブしたファサードも実に自然である。初めに展示ありき、という方針が貫かれたというが、流れるような空間構成が手堅い。建築も、自己主張することはなく、しかし、集成材を巧みに用いるなど、それなりに遊んでいて楽しい。出土地に設けられたサイト・ミュージアムの建築として景観賞に相応しい仕上がりである。

愛称は出雲原郷館。町民の寄付をもとにしていることといい、多くのボランティアに支えられていることといい、手作りの運営もユニークである。多くの来館者が、地域を見つめ続ける、それこそ原郷であり続けて欲しい。  
(布野修司)



# 優秀賞 旧割元庄屋 美濃地屋敷

所在地 益田市匹見町道川  
 事業主体 益田市  
 設計者 (株)共同企画  
 施工者 (株)大本組山陰営業所

概要  
 母屋 木造茅葺き2階建て 建築面積 348.92㎡  
 米倉 木造瓦葺き2階建て 建築面積 82.78㎡  
 民俗資料倉 木造一部鉄骨瓦葺き2階建て 建築面積 184.93㎡  
 長屋門 木造瓦葺き平屋建て 建築面積 101.57㎡  
 完成 平成17年4月



静かな田園地帯の一角に立つ、風格漂う伝統的建造物である。割元庄屋を度々務めるなど、古くから同地において大きな存在感を示してきた旧家の屋敷が修復（一部新築）され、新たな文化拠点として公開されたものである。長屋門、米倉、母屋は、旧来の姿をよく残しており、建築史上の貴重な事例であるとともに、伝統的家屋の美しさを十分に伝えてくれる。白壁と石州赤瓦のつややかな屋根、黒い木材による束柱や桁、格子窓、そして母屋をどっしりと包み込む茅葺きの屋根等が、シンプルながら鮮やかな調和を見せている。敷地内に新築された民俗資料倉も、他と統一された外観であり違和感がない。また、母屋の葺き替えには、地区の人々が分担して集めた茅が使われたという。

訪れた日、多くの見学者の姿を目にした。関係者の話によると、近くの温泉施設からバスでこちらに案内する取り組みもなされているらしく、PRにも尽力されている様子が見えがえた。これからは様々な活動の場として利用される機会も増えそうである。近くを通る国道191号からもよく見え、今後いっそう、地域内外の多くの人々に親しまれる「地域の顔」となることが期待される。

(八田典子)



# 優秀賞 旅館ぬしや

所在地 江津市有福温泉町  
 事業主体 (有)ぬしや  
 設計者 相生設計(有)  
 施工者 今井産業(株)

概要 構造 木造 地上2階・地下1階  
 敷地内の建築物数 12棟  
 建築面積 1,055.95㎡  
 延床面積 1,353.34㎡  
 完成 平成17年2月



温泉街からぼつんと離れ、雑木林のなかに立つ。本館、宿泊棟から大浴場に至るまで、外壁は木舞の土壁を模した淡い朽葉色。かぶる屋根は赤茶や渋色などの、石州瓦の混ぜ葺きだ。とり囲む木々にも溶けこみ、一体となって閑雅な景観を創り出している。

そもそも県道の拡幅工事に伴い、移転先を探すなか、ふと浮かんできたのがここ、「四季によって色が変わる山」だったという。つまり、自然に惹かれて決めた場所だ、建築にあたっては可能な限り自然を壊さぬよう心砕いた。おかげで、かつては棚田を潤していたという自然湧出の泉も、堤も、そのまま中庭として残る。天を突くクヌギや背高く伸びたアシビなどの樹木群もやけに居心地よさそうだ。

新築開店したのは平成17年2月だが、落ち着いて映るのは、古民家を移築しているせいにながくない。主が構想したのは「石見の田舎家」という。波子町の酒蔵2棟、都治町と旭町の古民家それぞれ1棟がここで息を吹き返した。

春を待ってアシビが淡い紅や白っぽい緑の、スズランに似た花を咲かす。やがて山ツツジがあたりを薄紅色に染め、青葉のころになるとモリアオガエルが堤で泡状の卵を産む。紅葉の秋には、風に吹かれたドングリの、瓦を打つ音が静寂のなかに響くそう。冬は枯淡な墨絵の世界、雪でも降れば……。雑木林が奏でる季節の詩ど真ん中に在る湯の宿。文庫本1冊を手を、泊まってみたくと思った。  
 (伊藤ユキ子)



# 奨励賞

## なが が うち 中垣内の棚田

所在地 益田市中垣内町  
事業主体 中垣内中間の棚田を守る会

概要 面積 約40ha  
水田枚数 約2,100枚  
中垣内中間の棚田を守る会 会員14名



柿本人麿の歌にも詠まれたという打歌山（大道山）の麓に広がる、規模の大きな棚田景観である。入り組んだ山裾の急傾斜地に、約40ヘクタール、枚数にして2,100枚の棚田があるという。住民の高齢化や都会地への転出に伴って、耕作放棄地が増加することに危惧を抱いた地区の人々により、保全活動が始まったのは約5年前。平成17年春には、「第二の故郷ますだでお百姓さん農業特区」として国の認定を受け、棚田オーナー制度も開始された。同年5月末には、花田植えも賑やかに、オーナーを招いての「打歌村開村式」が催されている。

稲作が行なわれているのは全体のおよそ6割であるが、休耕田の有効利用として蕎麦の栽培も行なわれ、蕎麦打ち体験会も開かれる。また、各所でコスモスも育成され、秋には多くの人々の目を楽しませるといふ。

打歌山山頂への登山道の整備も、地区の活動として平成10年頃から進められており、ここ数年は、元旦に数百名の参加者を迎える「初日遥拝登山」が恒例行事となっているようだ。地域に寄せる人々の熱意に支えられ、今後もこの地で賑わいのある農村景観が創出されることであろう。

（八田典子）



# 奨励賞 西ノ島大橋

所在地 隠岐郡西ノ島町大字美田～浦郷  
 事業主体 島根県隠岐支庁  
 設計者 (株)千代田コンサルタント広島支店  
 施工者 オリエンタル建設・鴻池組特別共同企業体  
 鴻池組・金田建設特別共同企業体  
 (株)金田建設、(株)朝山組

概要 橋長 215m  
 全幅 11.25m  
 橋梁形式 PC 3 径間連続ラーメン橋  
 完成 平成16年12月



西ノ島大橋は、西ノ島町の東の玄関口「別府港」と西の玄関口「浦郷漁港」を結ぶ国道485号のバイパスの一部として整備された美田湾をまたぐ橋である。この路線は、島内交通を担う幹線であり、また国賀海岸等への主要観光ルートでありながら、これができるまでは、湾を大きく迂回する狭隘な道路の通行を強いられていた。

周辺は大山隠岐国立公園に指定されており、橋の構造については、地元関係者や景観アドバイザーを交えた懇談会を設置し、決定されている。この結果、造られた橋はいたってシンプルであるが、隠岐の自然景観の中にあっては、それがまたよい。航路を確保するため桁下の空間が大きく取られ、その結果生まれた橋脚の高さと橋長のバランスはとても美しい。さらに、橋桁の緩やかな曲線が周辺の穏やかな水面や柔らかな山並みとほどよく調和している。

この島にとって、地域をつなぐかけがえのない橋であり、島民に愛され、観光客の印象に残る橋となって欲しい。

(伊藤慶幸)



# 奨励賞 斐伊川 木次水辺の楽校

所在地 雲南市木次町新市  
 事業主体 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、雲南市  
 設計者 (株)荒谷建設コンサルタント山陰支社  
 施工者 大福工業(株)、今井産業(株)、山陰建設工業(株)

概要 延長 約470m  
 整備面積 約2ha  
 完成 平成16年7月



この「水辺の楽校」は、木次の中心地に近い斐伊川の中州や小さな島を誰もが容易に近づけて、文字どおり楽しく水辺体験や自然体験が出来るよう整備されたものだ。

水辺は見立たぬようにさりげなく自然石で際が作られ、数本の高木だけが残し、低木や雑草は刈り取られ、すっきりとした岸辺に近い中州やその島は、いかにも人が渡ってくるのを待っているようだ。一方、岸辺からやや離れた島は芦や竹、雑木が生い茂って、そのまま。そこは小鳥や小動物の住処となっているに違いない。中州に渡れば観察も容易に出来そうだ。その中州も岸との間の水深が浅く誰でも簡単に渡れる。その浅い川底は自然石が所々に置かれ、そこはいろいろな水中生物のたまり場になっているはずで、まさに人や動植物の共生が図られていると言って良い。

近くには幼稚園があり、夏場にはこの水辺や中州で、幼児たちが歓声を上げて自然に親しんでいる光景も容易に想像される。

自然の地形や植生を最大限生かし、人工的なものを限りなく排除しながら、大仰にならずに自然体で整備されたこの「水辺の楽校」を河川の良好な景観保全の1つのモデルとして評価したい。

(小草伸春)



# 奨励賞 高野の家

所在地 浜田市長浜町  
事業主体 竹下由美子  
設計者 竹下純治  
施工者 宮田建設工業(株)

概要 構造 木造2階建て  
建築面積 96.58㎡  
延床面積 142.75㎡  
完成 平成3年5月



望洋たる日本海を見はるかす浜田市長浜町の高台、高野の住宅地の入口に建つ木造家屋。ここから眺める漁火は絶景だそうだ。外壁は下見板張り、屋根は片流れ、腰高のデッキが庭にせり出していて、一見、山荘風である。建築してから14年を経過し、板壁は塗り直されているというが、薄い茶褐色の色調は、周囲の木々とよく調和している。広い庭には、建築当初植栽された木々が、自然のままの姿形で成長繁茂し、隣接する雑木林と同化しており、結果として、広い自然の中にこの家は包みこまれている感じがする。おそらく住む人に落ち着きと安らぎを与えてくれるだろう。新築の家とちがって、年を経るにしたがって家屋も庭木も周囲に馴染み、一種の風格ができあがっている。

(藤岡大拙)



# 奨励賞

## 宍道湖景観を守るための 嫁が島保全管理活動

所在地 松江市（嫁が島）  
事業主体 NPO法人まちづくりネットワーク島根  
（ボランティアの方々）

概要 草刈面積 約3,000㎡  
平成12年活動開始  
平成17年5回実施、延べ参加人数168名



宍道湖の湖岸から嫁が島を通して見る夕日、朝霧の中に浮かぶしじみ船と嫁が島、これらは、全国に知られる島根県を代表する景観のひとつである。松江市に住まう人、松江市を訪れる人は皆、いつまでもこの情景は変わらないでいて欲しいと願うであろう。このような宍道湖の景観を守ることに、その必要性を感じ「守りたい」という想いがあったとしても、そのための行動を実際にとり、継続していくことは非常に難しい。そうした中で、「NPO法人まちづくりネットワーク島根」は、斐伊川の上下流域にも影響を与えるであろう宍道湖周辺の住み良い地域づくりを理念に、嫁が島の保全管理活動を実際に行い、そして継続している。

この保全活動とは、年に数回ボランティアを募り嫁が島の草刈りなどを行うものであるが、野焼きが禁止されている現在において、数トンもの刈った草を船で陸に運び処理するなど、この活動には想像以上の苦勞が伴っている。そのような中であって、毎回数十名の方々がボランティアで参加されていることに対しては、本当に頭の下がる想いである。

このような活動がこれからも多くの人に認知され受け継がれていくことを願い、意欲的な活動を行う「まちネット」の方々は勿論であるが、彼らの呼びかけに応じて活動に参加された人達全てに感謝の気持ちを込めて是非この賞を贈りたい。

（浅田純作）

# 奨励賞 花とヨシに託す宍道湖岸の景観づくり

所在地 松江市大垣町  
事業主体 NPO法人斐伊川流域環境ネットワーク（斐伊川くらぶ）  
松江市立秋鹿小学校  
松江市立中島小学校  
秋鹿地区布川寿会  
松江市秋鹿公民館

概要 菜の花栽培面積 約2,000㎡  
桜植栽 10本  
ヨシ植栽（竹ポット） 670本  
平成14年活動開始



自然を愛していると自負している我々の足下で、環境の荒廃が進み、地球規模で起きている台風や地震などさまざまな現象に誰もが危機感を抱いている。しかし、不安や社会を嘆いているだけでは問題は解決しない。このような中、それを自分自身の生き方の問題として捉え行動を起こしているグループ「斐伊川流域環境ネットワーク（斐伊川くらぶ）」がある。その活動の数々は、目に見える形で着実に答えが出され、現在も進行している。

「宍道湖ヨシ再生プロジェクト」「ドングリの森づくり」に続く今回の「花とヨシに託す宍道湖岸の景観づくり」は斐伊川流域の景観や環境を考えた地域づくり「菜の花プロジェクト」の一環として、松江フォーゲルパーク前の浜を活用し、ヨシの栽培、菜の花を播種、桜の植栽などを行うものである。活動の土地は決して広いとは言えないものの、高齢者と子供達、地域住民と児童のふれあいを通じてあるべき地域社会の姿が見て取れる。

斐伊川の上・下流と宍道湖を深く見つめる彼らの行動には、何にもまして代え難いほど愛が感じられる。彼らの行動力とシステムの連動の良さ、そして地域を愛する心根に是非賞を贈りたい。

（平本映子）



# 第13回 しまね景観賞

## 大賞

- ① 田和山遺跡と共存する松江市保健医療福祉ゾーン  
(松江市立病院・松江市保健福祉総合センター)

事業主体／松江市

## 優秀賞 まち・みどり部門

- ② 木綿街道の町並み

事業主体／出雲市、高松奈津子、新町町内会、  
片原町町内会、宮之町町内会、木綿街道の会、木綿街道商業振興会

## 優秀賞 土木施設部門

- ③ 志津見大橋

事業主体／国土交通省中国地方整備局斐伊川・  
神戸川総合開発工事事務所

## 優秀賞 公共建築物部門

- ④ 荒神谷博物館

事業主体／斐川町

## 優秀賞 公共建築物部門

- ⑤ 旧割元庄屋 美濃地屋敷

事業主体／益田市

## 優秀賞 民間建築物部門

- ⑥ 旅館ぬしや

事業主体／(有)ぬしや

## 奨励賞 まち・みどり部門

- ⑦ 中垣内の棚田

事業主体／中垣内中間の棚田を守る会

## 奨励賞 土木施設部門

- ⑧ 西ノ島大橋

事業主体／島根県隠岐支庁

## 奨励賞 土木施設部門

- ⑨ 斐伊川 木次水辺の楽校

事業主体／国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、雲南市

## 奨励賞 個人住宅部門

- ⑩ 高野の家

事業主体／竹下由美子

## 奨励賞 工作物その他・活動部門

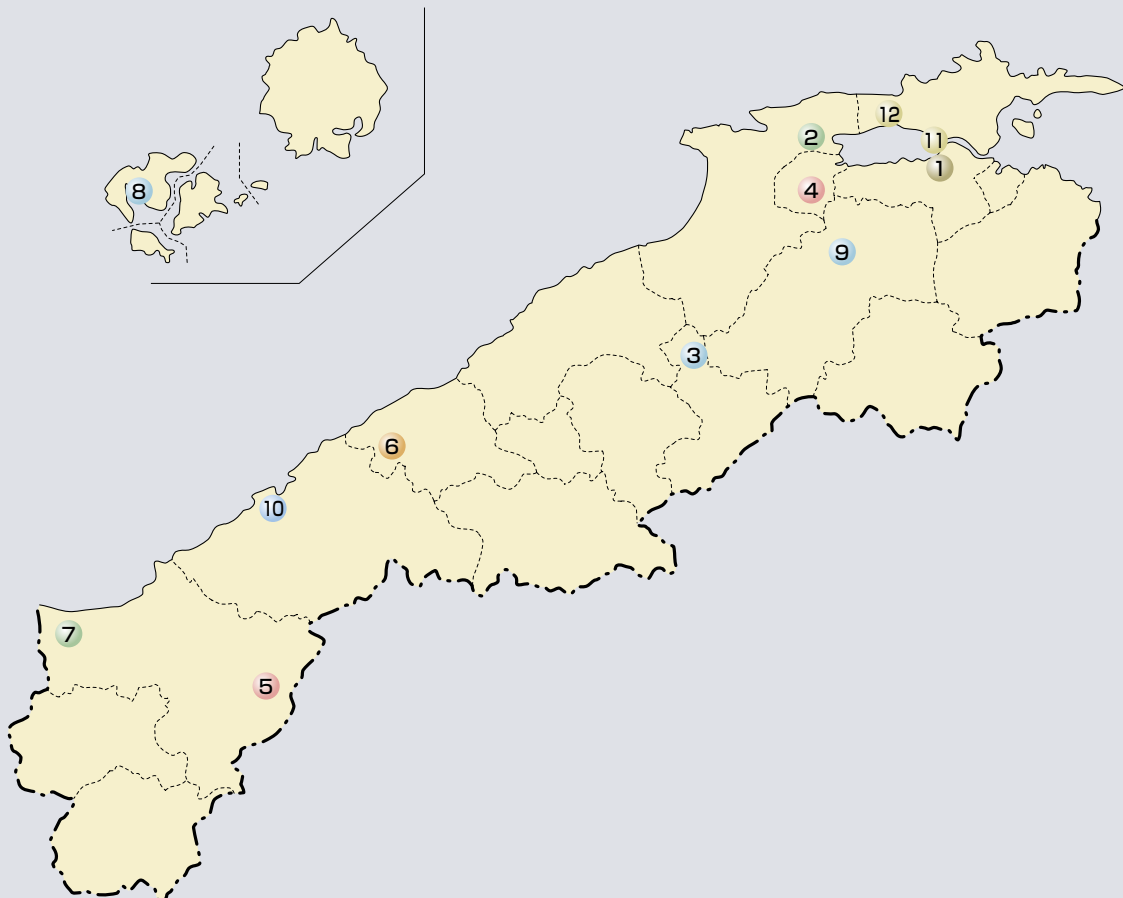
- ⑪ 宍道湖景観を守るための嫁が島保全管理活動

事業主体／NPO法人まちづくりネットワーク島根

## 奨励賞 工作物その他・活動部門

- ⑫ 花とヨシに託す宍道湖岸の景観づくり

事業主体／NPO法人斐伊川流域環境ネットワーク、松江市立秋鹿小学校、  
松江市立中島小学校、秋鹿地区布川寿会、松江市秋鹿公民館



平成17年度

## 第13回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

### 審査委員

- 浅田 純作 独立行政法人国立高等専門学校機構  
松江工業高等専門学校助教授
- 伊藤ユキ子 紀行作家
- 伊藤 慶幸 島根県土木部長
- 小草 伸春 □□島根県建築設計事務所協会会長
- 八田 典子 島根県立大学総合政策学部助教授
- 平本 映子 松江生活デザイン研究所主宰
- 藤岡 大拙 島根県立島根女子短期大学名誉教授
- 布野 修司 滋賀県立大学環境科学部教授
- 山谷 裕子 画 家

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

### 審査経過

- 募集期間  
平成17年7月1日(金)～8月31日(水)
- 募集結果  
応募総数……101件  
応募物件数… 96件
- 第1次審査(平成17年9月21日～10月7日)  
応募書類、写真を基に第2次審査の対象となる35物件を選出。
- 第2次審査(平成17年11月8日・9日)  
選出された35物件・活動について現地審査及び最終審査会を行い、12物件を選定。
- 表彰式(平成18年2月7日)  
受賞物件の事業主体、設計者、施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈。



## 第13回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

応募部門	物件名称	所在地
まち・みどり部門	※中垣内の棚田 田和山史跡公園 JR出雲横田駅前通り 石州瓦の町 都野津 ※木綿街道の町並み	益田市中垣内町 松江市乃白町 仁多郡奥出雲町横田 江津市都野津町 出雲市平田町
土木施設部門	※西ノ島大橋 みさき親水公園 通常砂防事業 瀧ヶ谷川 「吐玉の滝」(吐玉散溪)遊歩道 浜田マリン大橋 ※志津見大橋 万葉公園 人麻呂展望広場 ※斐伊川 木次水辺の楽校	隠岐郡西ノ島町大字美田～浦郷 安来市亀島町 浜田市弥栄町三里 出雲市佐田町反辺 浜田市原井町～瀬戸ヶ島 飯石郡飯南町志津見 益田市高津町 雲南市木次町新市
公共建築物部門	※荒神谷博物館 ※田和山遺跡と共存する松江市保健医療福祉ゾーン (松江市立病院・松江市保健福祉総合センター) 浜田市立原井小学校 雲南市立加茂幼稚園 ※旧割元庄屋 美濃地屋敷 酒蔵 奥出雲交流館 安来市営住宅内代団地	簸川郡斐川町大字神庭 松江市乃白町 浜田市港町 雲南市加茂町宇治 益田市匹見町道川 仁多郡奥出雲町亀嵩 安来市切川町
民間建築物部門	※旅館ぬしや 草庵 扇町ポケット888 今岡美術館 特別養護老人ホーム 万田の郷	江津市有福温泉町 簸川郡斐川町大字学頭 出雲市今市町 出雲市天神町 出雲市万田町
個人住宅部門	※高野の家 古民家再生の家 袋小路に建つ家 K邸	浜田市長浜町 松江市東長江町 益田市三宅町 松江市南田町
工作物その他・活動部門	出雲市駅前矢尾線 ※宍道湖景観を守るための嫁が島保全管理活動 ※花とヨシに託す宍道湖岸の景観づくり 公共用歩廊	出雲市今市町 松江市(嫁が島) 松江市大垣町 仁多郡奥出雲町三成

受付順 ※は受賞物件

